

# 商友

28号 ● 2021.3

【発行】松江商工会議所青年部

事務局

松江市母衣町 55 - 4

TEL(0852)32-0507

FAX(0852)55-2111

<https://www.m-yeg.com>

## 特集 歴代4会長座談会！松江YEGについて

コロナ禍を経て、松江YEGの現在・過去・未来の在り方について、歴代4会長に話を伺いました

34代会長 矢田 裕光氏

35代会長 伊瀬 智章氏

36代会長 管田 啓司

(令和2年度 直前会長)

37代会長 長岡 望

(令和2年度 会長)

「YEGを先導するにあたり意識したことや、コロナ禍を経て過去から未来に向けてYEGの在り方についてどのように感じるか

矢田…若い人に限らず気軽に何かにチャレンジする人たちが増えていると感じている。ものすごい量の情報に触れる機会が加速度的に増え、価値観や手段が多様化する

いうものにシフトしてきているのかなと感じている。

管田…私がこの会に入ってから8年が経ち、当時の土壌と今の土壌は違っている。設立40周年の年に提言委員会が発足し、3年目に親会を通じて松江市へ提言することができた。これによって様々な外部団体がYEGを認識し、注目してもらったと感じる。それと同時に発言にも責任が伴うことをより強く意識しながら会を運営するようになった。特に今年度はコロナ禍だったので長岡会長はものすごく大変だったと思う。今までと違う視点や価値観で運営しなければならぬ。

長岡…委員会を通して活動していくと事業担当者として外部団体・組織に対して、その窓口の担当者として相談したり協議したりということができていたが、今はお互い担当者レベルの話ではなく「YEG」という団体として認識され始めている。会の運営としては今年度はコロナ禍なので、事業をやめるのは簡単な判断だし、やるということもそれはそれで判断が出来てしまえば簡単なことかもしれない。ではどちらにするのか、というところはすぐ悩んだ。令和2年度は4月からスタートだが、運営としてはそれ以前の2月頃から、様々な状況を想定してスタッフで慎重に検討した。有事の際にどう責任を取るのかも会長としてはすごく意識をした部分で、もちろん批判やお叱りがあれば甘んじて全て受けるが、もし万が一病気になる方がおられたり、その周りのご家族に何かあった場合、これは人として責任が取れない。各事業はYEGメンバーが案を練って計画したもので出来るだけの策を講じた上で実施したい思いがありながら、やれたこととやれなかったことがあ

ったこととやれなかったことがあ

る中で、有事の際を想定する会の運営というものはものすごく悩んだ年度だった。私自身がYEGに入ってから、入会翌年に副委員長をさせてもらった時から、やっぱり自分がやって楽しい事業というのをずっと計画させていた。失敗したことも

失敗したことも



あるしうまくいったこともあるが、そのように事業計画をして欲しいということは伝えなかった。その思いを持ちながら会長となったが、それができなかったのは心残りである。

**管田**.. もう前年までの運営が全く参考にならない状況になった。長岡会長が言うようにできることとできないことがあつて、ただ、できないと嘆くのではなく、じゃあどうやったらできるのか、各YEGメンバーが前向きに考え、当初の計画と全く違うこともあるが、本当に色々と試行錯誤しながら同じベクトルに集結してできたのはYEGの力なのではないか。

**伊瀬**.. 会長職のときには何かあれば親会の方や、他団体の方から真つ先に声がかつた。意見を求められる機会がたくさんあり、そのような中で出会った方々と親しくなつてまた新しい世界が開ける。非常に充実していたと実感している。

それを踏まえて考えると、各会長経験者が体感しているように、様々な方面からYEGの意見を聞いてみようという良い流れになつているので、それをしつかり会員の皆さんも自分の意見を伝える場があ



るんだつてことを意識されると良いのでは。スタッフや委員長レベルだけでなく会員全員が見をどんどん上にあげることができ、届けることができる組織なんだと改めて感じた。

— これからの松江YEGに期待することは何か

**伊瀬**.. 今後のYEGの役割はやはり若い新しい発想。過去にとらわれない価値観。新しいやり方、新しい発想というのが、逆にやりやすい時期でもある。求められているのは、これからの地域経済を担っていくのが我々だという強いリーダーシップ。そこをぜひ現役の皆さんは逆に今だからこぞできるチャンスと捉えて新しいことにどんどん挑戦していく。そういったリーダーシップをとっていくのが今後のYEGの役割ではないかと感じる。

**矢田**.. コロナ禍でとても大きな転換期を迎え、階段で言うところ2段階飛ばし3段階飛ばしくらいのインパクトがある。これはひと段落しても元には戻らない。もう前に進むしかない。その中



で、SDGs (Sustainable Development Goals) とか、CSR (Corporate Social Responsibility)、CSV (Creating Shared Value) などと近年言われるが、これらが本来に意味を持つ時代になる。慈善事業、慈善活動ではなく、経済なり社会なりが生き残っていくために大事な概念であり、改めてこういうタイミングでクローズアップされて見直されている。YEGは経済団体として地域から期待されている面もある。このような新しい言葉・概念について何が大事な部分なのか本質をしっかりと捉えて、地域のリーダーである気概を持って活動してほしい。

**管田**.. 何十年後また状況が全く違うときに、YEGもだが松江市がどのような地域になつているのか。地域を発展させるために、若い世代は広い世界を見て、知識や経験をj得て、地域を盛り上げていくことが必要。地域を盛り上げていくことでYEGのような青年経済団体が主導する役割を果たせるのではないかと感じる。感覚を研ぎ澄ませ、意見を聞き、リーダーシップを発揮する、そう

いう団体になるのを期待している。  
**長岡**.. 全国のYEG各単会のお話を聞いていくと、早い単会はコロナ禍において、3月とか4月といった早い段階から行政と一緒になつて事業を始めていた。今年度の松江YEGが同じことができたかというところ、今まで行政との関わりも深くなつたから、自分たちだけで検討するというレベルだったため、そこまでのスピード感が無かつた。行政と常に深く連携が取れて気軽に相談し合えるような立場であれば、もっと早い段階で何か違った事業・アクションが起これたのではないかと考えられる。今せっかく行政の若手職員さんたちとも繋がりができているので、今後いわゆる風会議というようなものも含めて、より深い繋がりと発展させていければ、その先により地域のために必要な事業、行政と民間が互いに検討しあえる事業を、よりスピーディーに実行できるのではないかと感じる。



— 今回の対談内容は紙面の都合上大幅にカットしてお届けしております。詳細版は松江YEGホームページにてご確認ください！

特集記事QRコード







令和2年度会長 長岡 望

**昨** 年春、理事会を控えた4月9日、松江市内で初の新型コロナウイルス感染者が公表されました。

「ついに出了か…」

予め想定していたシナリオに沿って4月理事会を中止し、臨時理事会を開催。4月定時総会の中止と、臨時総会を電磁的方法にて開催することを決定しました。臨時総会では、当初予定していた議案に「非常事態宣言」について規約の改正を追加し、承認されました。私は、YEG活動は「会員それぞれの自事業が健全に行われていること」が前提であると思います。「それぞれの自事業についてしっかりと考え、コロナに対応するための時間が必要」と思い、臨時総会后、会長として非常事態を宣言し、YEG活動を中断しました。

4月7日には、水郷祭推進会議にて水郷祭の中止が決定されました。これまで延期はありましたが、中止は初めてのこと。歴代の会長の中で、唯一「水郷祭が出来なかつた会長」となりました。前回の会場移転では担当

委員会として取り組みました。今年度も市役所の建て替え工事に伴う会場移転の可能性があったため、これらの課題についてしっかりと取り組んでいく思いを持っていただけに、とても残念でした。

6月には田部会頭よりお声がけいただき、親会・JC・YEGの3者の共催で「まつえGENKI夜市」が始まりました。年度途中に発生した事業でしたが、地域開発委員会を中心に多くのメンバーが参加、コロナ禍であるにもかかわらず大きな賑わいづくりが出来ました。春に中断したYEG活動。GENKI夜市やスタッフ会など、個別の活動はありましたが、全体での活動再開は10月例会でした。10月例会はZoomを使った初のオンライン例会でした。コロナ禍で活動に制限がありました。10月例会はZoomを使った初のオンライン例会でしたが、主管の提言委員会を中心に新しい取り組みにチャレンジすることができました。

そして12月定時総会。次年度会長の承認・次年度理事の選任があることから、会議所会場とZoomを併用したハイブリッド形式で開催されました。10月例会から僅か2ヶ月で一歩進んだ会議形式で開催することが出来たのは、主管の総務広報委員会を中心に新しい取り組みにチャレンジするYEGの姿勢が現れました。

渉外交流委員会が計画する忘年会はZoomを利用したオンライン「望」年会。オンライン飲み会未経験者からは盛り上がりなどに懐疑的な意見もありましたが、当日は多くの会員が参加し、それぞれに楽しんでいる姿を

見ることができました。

10月例会から青年部活動を再開するにあたり、各委員会には年度当初上げた活動方針はそのままに、事業内容の再考をお願いしました。その結果、多くの事業が10月以降からの計画立案となり、この原稿を執筆している1月末現在、まだ進行中の事業がいくつも残っています。

提言委員会は行政と会議を行いながら、令和元年度に提言した「まつえの日」のその後「フォロワー」と新しい提言「安心・安全なまちづくり」について引き続き活動しています。

観光開発委員会は2月に松江城興雲閣にて子どもたちに国宝松江城に親しみと愛着を持ってもらう事業「作ろう・描こうみんなの松江城」を計画中です。コロナの状況次第ですが、無事に事業を終え、事業目的を達成することを願っています。

経営者開発委員会には、当初、学生など若者と交流できる事業をお願いしていましたが、これもコロナの影響で叶いませんでした。しかし、現在、「松江の魅力発信プロジェクト」として、市役所の若手職員との協働で松江の魅力を伝える動画を制作。発信に向けて活動しています。

今年度、会長スローガンを「全力」としました。会長スローガンを知る方々には「今年度は全力で活動できないね」と労いの言葉をかけていただきました。心の中には「その通りだな」と思う一方、「この状況を全力で対応している」という思いもありました。世界中が初めて経験する非常事態。世界中の

リーダーが組織の運営について悩んだ1年であったと思います。そんな中、「この状況は私が会長だから乗り切れるんだ」という気概を持ってやってきました。この苦境を共に悩み、付き添ってくれたスタッフ・専務理事には感謝しかありません。そして臨機応変に事業を計画し実行してくれた各委員会・メンバーの皆さんにも感謝申し上げます。

この先、コロナ以前と同じような活動が出来る保証はありません。しかし、今年度の経験がこれからのYEG活動、各事業所活動の糧になるものと信じています。

1年間、ありがとうございました。





令和2年度専務理事 三島 宗祐

**令** 令和2年度、専務理事を務めさせてい  
ただきました三島です。1年間大変お  
疲れさまでした。

思いがけず長岡会長よりお声がけいただ  
いたときは、迷いがありました。専務理事の役  
割は会全体を掌握し会長、副会長を補佐する  
ことにあります。自分でもそういったことが  
苦手であることは自覚しておりますので良い  
経験になるであろうと思ひ受けさせていた  
きました。

年度当初よりコロナウイルス感染症の影響  
を受け、1年間のスタートを切る総会の開催  
方法から様々な角度で検討する必要があり大  
変な幕開けとなりました。長岡会長は相当な  
苦勞をされたと思います。

その後も予定しておりました事業活動の中  
止、延期、立て直し等、先の見えない状況が  
続き、各委員会で打ち出した活動方針に沿  
った活動を実現できない状態でしたので委員  
長の皆様も歯がゆい思ひをされたことと思  
います。

そのような状況下でありながらもYEG活  
動を行っていくための手法を検討し、IT

ツールの活用方法を研究するなどして今年度  
の活動を形にすることができました。これは  
間違いなく会員の皆様全員が会長スローガ  
ンにあるように全力で取り組んできた成果だ  
と思ひます。

それぞれの事業活動については各委員長  
の報告が詳しいと思ひますのでここでは割愛  
しますが例年に引けを取らない活動が出来  
たと感じています。

私的にひとつ心残りとなったのは私の数  
少ない才能というか特技である楽しい二次  
会の設定をする機会が無かったことが残念  
でなりません。

最後になりますが、大変な状況の中、当初  
の計画通りに事業を実行することが出来ず、  
担当事業の変更などもありながら臨機応変  
に対応して委員会を運営していただきました  
委員長をはじめとする理事の皆様1年間お  
疲れさまでした。また、副会長、監事の  
皆様、事務局の三原さんには大変お世話  
になりました。そして長岡会長、ご期待  
に添えることができない点も多々あった  
かと思ひますが重要な役割を任せていた  
いただき感謝しております。

1年間ありがとうございました。



## 出向報告

## 日本YEG



令和2年度 日本YEG 専門委員

堰 大輔

令和2年度は、単会活動と並行して日本  
YEG 政策提言委員会へ出向させていただきました。  
自分にとって大きな変化の年となりました。

出向申込書の応募理由欄にはこう書きました。  
「松江YEGでの政策提言活動をより良  
いものにしていくことで、松江YEGの存在  
価値を高めたいと思つたからです。」日本  
YEGで国全体や全国の中小企業を対象とした  
政策提言を行うことで得る経験を、松江YEG  
に還元したい。一部にある、飲み会ばかり  
しているイベント集団というイメージを無く  
し、地域のためにチャレンジし続ける提言団  
体でありたいと強く思ひます。(そして、協  
力して成し遂げた後の旨い酒をみんなと飲  
みたい！)

令和2年度政策提言委員会の活動計画は3  
つの軸がありました。①全国会長アンケート  
②郷創塾開催③政策提言活動です。1月に左  
世保で第1回委員会が開催され、全国各地か  
ら出向された23名の皆さんと活動することに  
なりました。2月には沼津で第2回委員会が  
あり、4月の全国会長会議にむけてアンケ  
ー卜案の作成をしていました。…ここまでがコ  
ロナ前の活動です。

新型コロナウイルスに伴い、3月に予定さ  
れていた岡崎での委員会が中止となり、活動

はZoomによる委員会のみとなりました。  
しかし当初から委員長は「会えなくとも、や  
るべきことは変わらない！」と力強く発信し  
てくれていて、Googleドライブなどを  
活用してのアンケート作成などを進めていき  
ました。7月には久しぶりに対面でき、延期  
となっていた全国会長会議でのアンケートも  
実施することが出来ました。「やるかやらな  
いか」ではなく「どうすればできるのか」を  
真剣に考えることで知恵が生まれることを深  
く実感した時期でした。

その後は郷創塾開催のため、9月に春日井  
での委員会を単独開催。10月には開催地大分  
市で現地打合せを行い、高岡では全委員会  
揃つての会議が開催されました。11月の全  
会長研修会は第三波が騒がれる中ギリギリの  
状況でしたが人数制限の上でハイブリッド開  
催にて郷創塾が無事に開催できました。

政策提言については、10月の委員会から検  
討が始まつていたものの本格的な活動開始が  
郷創塾後になったため、Zoomと個別調査  
をタイトなスケジュールで行うことになり  
ました。2度目の緊急事態宣言発令により1月  
の委員会はZoomのみとなり、2月も開催  
地を変更してのハイブリッド開催。3月の全  
国大会でも、例年のように壇上が上がつての  
手交式というわけにはいかない状況ですが、  
コロナ禍に翻弄された令和2年度だからこそ  
得られた経験は大きかったと思ひますし、充  
実した1年を送らせていただけました。

ご協力いただいた全ての皆さんに感謝し、  
「単会あつてこそ日本YEG」を体現すべ  
く、今後も「全力」で邁進していきます。



# 松江GENKI夜市

新型コロナウイルスの影響で売上が低迷している松江市内飲食店の活性化に繋がるよう、親会・JC・我々YEGの3者による主催で「松江GENKI夜市」と題してキャンペーンを実施しました。6月1日に第1回の打ち合わせ、6月26日にキックオフイベント開催と僅か3週間の準備期間でしたが、松江市・TSKの御協力と、各団体の担当者の迅速な設営で実現しました（YEGは地域開発委員会が担当し、イベント時は有志メンバーを募り、運営しました）。

プレミアム飲食券は500円×12枚綴り（額面6,000円）を4,000円で販売しました。プレミアム飲食券の利用が出来る加盟店は衛生セミナーの受講と松江市の「感染予防がんばる宣言」が参加資格に含まれたため、お客様も安心して利用することができました。また、バーやスナック、フランチャイズ店でも利用可としたことで、松江市内の飲食業を広範囲に支援し、最終的に388店舗に加盟していただきました。

加盟店への集客とチケットの販売促進を目的としたイベントも開催しました。6月26日のキックオフイベントは伊勢宮で行い、松浦市長にもご挨拶をいただき、1,000人を超える来場がありました。また、7月18日には会場を東本町に移し開催、8月1日には白潟公園と京店商店街カラコ広場にて開催し、多くの来場とチケットを購入していただきました。9月11日からは、新たにスタンプラリー企画をスタート、初日は松江駅前と京店商店街にて特設ブースを設置。チケット購入者へビールと日本酒を振る舞いました。

スタンプラリーは飲食券利用期限の11月30日まで実施しました。応募総数は2,094枚で市内宿泊施設の宿泊券や松江の名産品などを抽選で合計100名にプレゼントをしました。応募ハガキにはコメント欄は設けていませんでしたが、「良い事業だった」「ありがとう」といった感想や私たちが気付かなかった改善ポイントなどのコメントをいただきました。

プレミアムチケットは合計3万セットを販売し、完売することができました。販売金額は総額で1億2千万円、額面で1億8千万円。チケットの利用率も非常に高く、換金率が99.3%で1億7870万円が換金されました。田部会頭によるとシンクタンクの調べでは、経済効果3億円とのことでした。

コロナによる自粛ムードが広がる中、6月からの取り組みは時期尚早かといった不安もありました。しかし、結果的には市民が街へ出るきっかけ作りとなり、市内飲食店への賑わいを創出できた事業であったと思います。

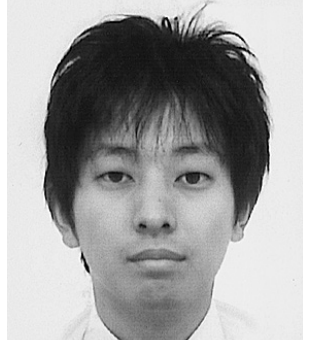
今回の「松江GENKI夜市」事業は、田部会頭からお声がけをいただき、参加させていただきました。この事業で得た経験を活かし、今後は松江YEGとして率先して事業を企画・立案することが重要であると感じました。また事業の実現には親会を始め、地域を愛する各団体との連携、行政からの支援が不可欠であることもあらためて感じました。今後も連携強化を図り、商工業の発展に寄与する事業を行って参ります。

ご協力いただいたすべての方へ感謝申し上げます。ありがとうございました。



## 総務広報委員会

委員長 藤本 真由



平成21年11月に当時の森山会長とYEGバンドをするために入会してから早11年。入会目的は2年目に達しましたが、これもYEGの事業と同じで、その事業自体にある価値はもちろんです、それを通じて得たものの先にまた新たな価値が広がっていると感じながら活動をしています。

今年度は7年ぶりに2度目の委員長を務めさせて頂きました。YEGは各事業所を代表するメンバーで構成されるだけあり、会の運営や事業の企画・実施を通して、会歴の長い短いも年齢も関係なく、今年もたくさんYEGメンバーの色々な考えに触れることが出来、とても有意義な年度となりました。

総務広報委員会では①情報発信事業、②WEB手帳管理、③名札作成、④4月総会、⑤12月総会、⑥商友作成、これらの事業を担当しました。

4月総会では会場を抑えて準備を進めている最中に感染拡大傾向が見られて中止判断となり、会則に従って総会を実施するため諸手続きを経てATを活用しての臨時総会を運営しました。12月総会では会場の人数を制限しながらWEBも併用してのハイブリッド開催。人が集まってしまう形式が大きく変わっていくことを体感し、そしてその中でどのように行動したら目的を達成できるのか自分ごととして考え知恵を出し合う大切さを学びました。

情報発信事業やWEB手帳管理（紙ベース手帳の廃止、名札作成、商友作成は今年度のYEG事業の中でも当初予定から大きな変更もなく実施できた数少ない事業でした。特にWEBツールを知り、それを活用できることは、物理的な交流が大きく制限される昨今において非常に大きな役割を果たせることを再認識し、またその反面、知ること、使えること、活用できること、この大きな違いも実感しました。

この報告が掲載される商友の作成では、例年は年度の目玉事業を特集記事として掲載しています。ところが今年度はそもそも事業自体が少なく、特に規模の大きな事業はほとんど中止となりました。そんな中、例年ある特集記事を無くすだけなら簡単な判断ですが、ページ数が減って予算も削減できますし、長岡会長の「全力」というスローガンのもと、特集記事にする事業が無いなら特集記事を自分たちで作ろうと企画しました。執筆段階ではまだ完成していませんが、どのようにまとめあげていけるのか、委員会の腕の見せ所です。

どの事業にも共通して言えることは、各事業を担当して頂いた委員長、このような状況下でもそれぞれの立場で協力して頂いた委員メンバー、そして要所要所で道しるべを示してもらった大内副会長に本当に感謝しています。ありがとうございました。

## 地域開発委員会

委員長 馬場 祥二



長岡会長による緊急事態宣言後の6月、田部会頭の旗振りであった松江GENKI夜市に、企画会議から参加させて頂きました。計3回のチケット販売ブース・ビール無料配布では、たくさんの方の協力をいただき、販売期間終了を待たずに完売することができました。ありがとうございました。3億円の経済効果があったとかなかったとか、誰かが言っていました。多分。

水郷祭が中止となり、生温かい夏でしたが、仲間達と声を出し汗をかくイベントができたことで、少しだけ夏を取り返せたかな、と思います。

松江GENKI夜市スタンプラリーを地域支援事業として提案させて頂いたとき、2回の理事会に間に合わないスピードを要求され、YEGの事業としては頓挫したものの、スタンプラリーの景品をYEGの事業所から提案・提供することを地域支援事業としてできたことは、多少なりともYEGの事業所に貢献できたと思っています。ご協力いただいた事業所の皆さん、ありがとうございました。もっと幅広く、イベント会社や旅行会社、物だけではなくサービスも景品として入れられたら良かったのかな。の悔いは少しあります。

松江GENKI夜市は、YEGの有志からの参加という形だったと思います。YEGとしては緊急事態宣言中の企画だったこと、委員会を開いて委員の皆さんに落とし込む事もできず、意見を聞いて進められなかったこと、水郷祭の担当委員長として参加しているにも関わらず、委員会の事業として動いていないんじゃないか、おいてけぼりにして嫌われちゃってないかな、おつかレインボーとか言って無視されたらどうしよう…。委員長って不安と悩みは尽きないのね。

悩んで学んでの1年でしたが、私の底なしの人徳が功を奏し、優秀な副委員長、委員の皆さんに囲まれての数少ない委員会は（人数も少なかったですが、人徳がアレなんで。）とても勉強になりました。ありがとうございました。

## 観光開発委員会

委員長 田中 恵司



去年の11月末からお話を頂いて松江YEGの委員長をさせて頂きました。私が松江YEGに入会して4年が経ちました。その時は委員長なんて難しいことができるんだろうか？と思いつながらも担当副会長の渡部弘さんをはじめ、佐藤副委員長、榎戸副委員長、途中で退会されましたが鎌田副委員長の助けもあり務めることができました。

先日松江城山公園内・興雲閣でのブランド化事業「祝！国宝5周年 作ろう描こう みんなの松江城in興雲閣」を行わせて頂きました。去年で松江おどんに一区切りをつけ新たなブランド化事業を何しようかと構想している中でコロナ禍でありました。その影響で松江の一大イベントである水郷祭をはじめ多岐に渡る事業が中止になり、時間はあるけどいろいろな制約がある中で行えるイベントはなんだろうと思った時に観光開発委員会の理事のみならず長岡会長、委員会メンバーの助言もあり今回のような親子で楽しめる小規模な工作会を行う事が出来ました。正直に申し上げると僕個人が考えた構想からはかなり形が違いは「原型を留めてない」といっても過言ではないでしょう。ですがイベントがとりあえず一段落し、今原稿を書いている現状を振り返るとやはりYEG活動って1人ではできないんだという事に尽きると思います。イベントですが参加された方も喜んでいただき一般社団法人松江観光協会や松江市も協力してくださったので皆で作上げた結果が出たと思いきや大正解でした。

まだ2月例会など事業は残っていますが振り返るたびに委員会メンバーや理事の皆さん他の委員会の委員長に沢山助言や助力を頂いたのでよりいっそう私もYEG活動に励みたいと思います。1年間ありがとうございました！



## 提言委員会

委員長 曾田 省吾



今年度は世界中が新型コロナウイルスに振り回された一年でした。委員長を受けさせていただいた時は、こんなことになるとは当然予想もしていませんでした。

そんな中ですが、提言委員会としては「やることは変わらない」という思いで提言活動を行って参りました。

事業としては、まず10月6日の10月例会。松江YEGとして初のWEBによる例会で、その後行われたYEGの例会の道筋を作った、と言っても過言ではないと自負しています(笑)。

1月14日、松江市職員の方々と昨年度松江YEGが提言した「まつえの日」についての意見交換を行いました。新型コロナウイルスの影響もあり動き出せていない。というのが現状ではありますが、「まつえの日」の制定を実現させたいという気持ちは松江YEGも同じである、というお互いの意思確認ができました。今後は連絡を密に取り合い実現に向けて動き出していこうと前向きな意見交換会となりました。

そして2月9日に開催した政策提言勉強会では、日本YEG政策提言委員会の中村守委員長をお招きし「YEGが政策提言をする意味・意義について」という内容で講演いただきました。Zoomと現地参加のハイブリッド開催とし、県内外の他地区のYEGの方々にもご参加いただきました。

商工会議所の成り立ちから青年部の存在意義やどうして政策提言を行うのか、そして他地区での提言事例などをわかりやすくお話しいただきました。私も改めて政策提言の重要性を感じました。

提言活動としては「安心・安全なまちづくり」をテーマとして児童防犯対策について松江YEGおよび近隣の市への調査をおこないました。それを基に「安心・安全なまち」を作るためにはどうすればいいのか考えていき、提言内容を作成しています。しかし私たちの目的は提言を行うことではありません。みんなが安心して暮らせるまち、そして住みたいと思えるまちづくりの一助となるよう努めてまいります。今後とも提言活動にご協力をお願いいたします。

一年間ありがとうございました。

## 経営者開発委員会

委員長 吉岡 利樹



「次世代育成事業」と聞いて何をイメージするか？そのイメージを理事で共有するところから始まり、委員会で意見交換を重ねていきました。また試みとして河内副委員長から、「松江市職員と協働しよう！その中から良いものが出来るはず」という提案があり、松江市役所「若手ワーキンググループ」7名が委員会に毎回参加し、一緒に事業を進めて頂けることになりました。

当初「定住・U・I・ターン促進」を集合型の事業で行おうと考えていたのですが、コロナ禍で修正を余儀無くされました。「人を集められない」という制約に苦しみ、事業として何をすれば良いのか、私にはつきりとした代案がなく、委員の皆さんに委ねるしかありませんでした。しかしある委員から「YouTubeに松江市のPR動画をアップしたら」という意見が！その後理事からも再び「PR動画を制作して発信しよう」と意見が上がり、9月ようやく事業計画がスタートしました。動画のコンセプトは「松江市の魅力を再発見できる動画」、差別化のために「短編で、かつ観光動画にはしない」。ターゲットは「高校の卒業生に絞る」。島根大学の学生と連携することで「若者との協働」を達成。松江市内の全高校と大学に「チラシを配布」をすることに。等々、委員会メンバーと市役所職員との協働により、有意義な意見が次々生まれました。動画制作は期間の厳しい制約の中、各グループが一生涯懸命に行ってくれました。出来上がった動画は、学生が松江市の魅力を必ず再発見してくれるものと自信を持っています。

経営者開発委員会は個性豊かで素晴らしい副委員長と委員の皆さんに恵まれた楽しい委員会でした。私は委員長としてとても素晴らしい経験をさせて頂きました。推薦して下さった秋鹿副会長はじめ皆さんに本当に感謝しています。この原稿を作成している時点では、次世代育成事業は途中、そして3月には勉強会を控えています。残り期間も協力してしっかり事業を行って参りたいと思います。

## 渉外交流委員会

委員長 加藤 創



コロナ禍が始まって、コロナ禍のまま終わった令和2年度。新年度が始まり、「さて、これから」という時に、非常事態宣言が発令されました。当初予定していた事業の納涼例会は中止、会員増強は縮小される事業所、売上が低迷する事業所等があり、積極的に行うことができません。その中でも新入会員として入会していただいた会員の皆様、会員を送り出していただいた事業所には感謝しかありません。また、12月に行った忘年会は、これまでと違った形であるものの、新スタイルで開催し成功させることができました。

渉外活動の中止が相次ぐ中、他団体との交流が持たず、もやもやした年度となったことが非常に悲しかったですが、その中でも委員会内で知恵を出し合い、1つのことをやり遂げることの難しさ、達成したときの嬉しさは例年と違ったものであったと思います。世の中の状況を鑑みながら次年度がどのような形で進んでいくかまだ不透明ではありますが、これからの活動の一例となったことと思います。また、これまで他団体との交流に参加されたことない会員の方、次年度は様々な形で開催されると思いますので、ぜひ参加していただきたいと思っています。

最後に、私自身が初めての理事ということもあり、非常事態宣言の中、部分的に再開された委員会活動も思うようにリーダーシップが発揮できず、委員の皆様、他委員会の皆様にご迷惑をおかけしたことを心よりお詫び申し上げます。しかし、そこが青年部の素晴らしいところでした。困っているときに声をかけ、助け合うところはまさに青年部でしかできないことだと実感しました。これからも松江商工会議所青年部にしかできない事業、先輩の方々から受け継いだ伝統を大事にする松江商工会議所青年部の会員を1名でも多く増やしていくことを次年度の委員長に託したいと思っています。

# 令和2年度新入会員の紹介

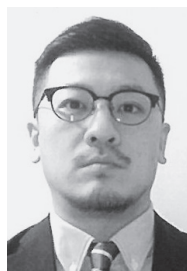
## ご入会おめでとうございます



**安部 瑞貴**  
島根電工(株)

令和2年4月に交代会員として入会させていただきました安部と申します。

交代会員として打診が来たときはYEGのことは何も知りませんでした。前任からの話やホームページ上の情報を見るうちに、私も一緒に松江を盛り上げていきたいと思いい入会を決意致しました。コロナウイルスの影響で活動が制限されている中ですが、負けずに活動していきたいと思っております。宜しくお願い致します。



**井上 雅道**  
(株)イノウエ

今年度より入会致しました井上です。今年度はコロナ禍により、私自身様々な状況に対応が遅れ、委員会等に参加できず、とても申し訳ない思いです。来年度は、各例会、委員会を通じて皆様と交流を深めながら、たくさんの学びや気付きを得たいと思っています。宜しくお願い致します。



**石本 智久**  
山陰酸素工業(株)

昨年入会し、オンライン忘年会の企画から会議に参加しました。皆が本業とは離れたところで目標を定めて、クリアする為に議論を重ね、力を合わせる。そんな委員会の進行に、学生時代のサークルや部活動にも似た一体感を感じました。

コロナ禍により皆様とお会いできない事を残念に思っていました。今はこの節目の時期に入会したことを前向きに捉えています。YEGでの活動を通じ、自分自身が成長していけるよう積極的に参加していこうと思っております。



**日高 規行**  
中国電力(株)  
島根支社

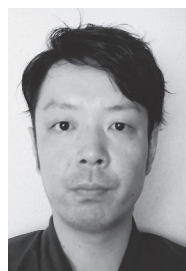
昨年4月よりYEGに入会いたしました。2020年は新型コロナウイルスの影響で、例年とおりの活動ができませんでしたが、こんな時こそYEGの結束を高め、この仲間の輪を一層広げていくとともに、松江の経済発展に尽力して参りたいと思っております。皆さまどうぞ宜しくお願いいたします。



**吉岡 辰啓**  
山陰中央新報社



**曾田 佳孝**  
(有)ヨネザワ写真館



**佐藤 良治**  
(株)I・D・A



**佐藤 友紀**  
KAKU制作店



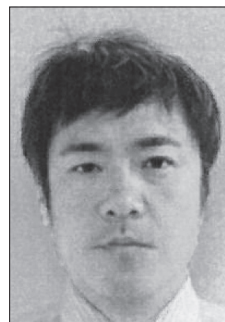
**佐藤 貴輝**  
(株)丸三  
丸三松江本店



**熊岡 誠元**  
LCC(株)



# ご卒業おめでとうございます



岩谷 智也  
イワタニ山陰(株)

平成30年5月に入会して、3年間皆様には大変お世話になりました。入会当初は活動の意義を理解しておらず、とりあえず参加していた状態でしたが、先輩方から早く馴染めるようにとお心遣い頂き活動に対する理解が深まりました。2年目からは理事をさせて頂いたおかげで活動の場が広がりました。年齢に関係なく、一つの目標に向かって力を合わせ事業を行い、お互いの意見を交わす事で仲間が増えていく事は楽しかったです。

また、中国ブロック大会・県連など他団体との異業種交流では、普段では経験できない事ばかりで貴重な経験をさせて頂き、充実した時間を過ごさせて頂きました。Y E G 活動に参加する事であらためて気づかされる事は、事業の中で無理なお願いであっても簡単に解決出来る仲間、当たり前前を当たり前前に続ける事が出来る仲間。様々な業種で年齢関係なく夢や悩みを語りあえる事は貴重な時間であり楽しい時間でした。社業でも、困ったときに相談・お願いが出来る仲間が増え心強くなりました。今後も宜しく願います。

最後になりましたが、松江Y E Gの益々の発展と活躍を祈念しています。本当にありがとうございました。



齊田 鉄平  
(株)野津旅館

思い立つのが遅く卒業まで17か月での入会。いくつかの目的をもっていたが達成には至らず。イメージと異なるようなこともあったし、想像の上をいく部分もあった。しかし在籍したことはとても意味を持った行動だったと思う。短い期間だったが関わってくれた仲間感謝したい。



管田 啓司  
(有)黒潮社

私は、自社で役員という立場になり、少しでも知り合いを増やそうと思いい、平成25年8月に入会させて頂きました。それ以来7年が経過したのですが、振り返ってみれば早かったなと感じています。

最初は会員交流委員会に所属しました。入るやいなや忘年会の余興の練習でダンスをひたすら練習したことを覚えています。入会当時はほとんど知り合いがいなかったのですが、同じような境遇の仲間ということもあり徐々に打ち解けることが出来ました。その後、総務委員会などに所属し、総会や例会・勉強会などの運営をさせて頂き、大変勉強になったと感じています。

また、昨年は会長職をさせて頂きました。そこで各種団体、行政などの方々や多くの仲間との出会いが今後の人生の糧となったと感じています。

今年度は、コロナ禍ということもあり、例年と違った1年を過ごすこととなりました。水郷祭をはじめ様々な行事が中止となるなど残念な面がありました。しかし、理事会・総会などを対面からオンライン中心に素早く切り替え運営することが出来たのも、チャレンジ精神旺盛なメンバーの創意と工夫だと思います。改めて青年部は凄いい組織だなと感じさせられ、そういう変化を間近で見られたのは、私にとって貴重な経験となりました。

最後になりますが、青年部で出会った方々にお世話になりながら、様々なことを経験させて頂きました事に大変感謝しております。私にとってはこの8年間はかけがえのない財産となりました。

ありがとうございました。



長崎 方建  
まつえ蜂蜜

私は高校を卒業してから進学と就職で大阪、熊本、福岡、高知、和歌山とずっと県外で、30歳を機に家業を継ぐためにUターンで松江に戻り、平成28年2月に青年部に入会しました。総務委員、総務委員長、会員交流委員会副会長、総務委員会副会長、最終年度は監事と、5年と短い間ではありましたが、内容の濃い青年部活動でした。

最初の一年は何もよく分からないまま参加していましたが、二年目にほとんど面識のない菅田さんから声を掛けられ、10秒ほど悩んだ末に、勢いで「委員長やります！」と返事をしてしまい、返事をした10秒後には後悔していました。所属委員会以外のメンバーの顔も名前も分からない状態で、不安いっぱい総務委員長がスタートしました。最初の合同委員会では、メンバーがきちんと来てくれるのか？委員会の進行がきちんと出来るか？と不安と緊張でカチコチだったのを今でもはつきりと覚えています。当時の矢田会長と藤井専務には色々フォローしていただきました。3年目以降は、会員増強の報奨金で炎上、会員手帳のデジタル化で炎上と理事会の厳しさも経験しました（笑）。

私の青年部は「委員長やります！」と勢いで一歩踏み出した時から始まりました。青年部は、他人事ではなく常に当事者として参加する事、またそう心掛ける事で必ず得る事があると、先輩方から教えていただきました。委員会やイベントに積極的に参加する事で失敗や多くの経験をし、多くの出会いもありました。5年の間にご縁がありました現役メンバーやOB・OGの皆さま、たくさん勉強させていただきました。有難うございました。これからの松江YEGの益々のご発展と、会員の皆さまのご活躍を楽しみにしております。有難うございました。



畠山 正寿  
うまえもん

青年部に入会してお世話になりました会員の皆様、会議所の皆様、OBの皆様、まだまだお世話になった皆様は数えきれないぐらいにいますが、その皆様全員に感謝を述べたいと思います。

私は地元が県外であることから同年代の仲間が少なかったです。そんな中、勇気を出して青年部に入会したのが5年前です。いや、6年前かも？覚えてないぐらい前に入会させていただき沢山の仲間に出会えました。

その仲間にはいっぱいの仕事と笑顔と充実感を頂きました。40歳を超えて学生時代のような時間を過ごすことが出来ました。本当に楽しかったです。

思い出は本当にたくさんあるのですが中国ブロック大会で中国地方のいろんなところへ行った大人のバス遠足は楽しかったです。美味しいものをいっぱい食べていろんな名所を巡って仲間とバカ話やまじめな話をして。正直に言えば何を話していたのかどんなところに行っていたかは定かではないが、笑顔でいれたことは鮮明に覚えています。

水郷祭は暑かったなー。自社の出店もありYEGブースにずつといることは出来なかったのですが観光開発委員会を4年間所属させていただいたこともあり出店品のアイデアや調理方法等に携わることが出来たのは良い経験となりました。

今、感じることはもう卒業しなくてはいけないという寂しさです。ただ仲間と過ごすことが出来たこの時間は私にとつての大きな大きな財産になったことは間違いありません。



藤田 周一  
（株）Lagoon

令和元年から2年でありましたが、皆様方には大変お世話になりました。

この2年間、何よりも印象深かったことは、同じ委員会に所属していた先輩方が、私を含めた新入会員をあっという間に仲間に受け入れていく姿でした。そして、仲間になるとともに、経験したことのない役割を次々と容赦なく与えていく姿も斬新でした。

私の初年度の渉外交流委員会での最初の活動は、新規会員の勧誘・水郷祭の寄付金依頼でした。「え？いきなり？一人？」という声が頭をよぎることもありましたが、忘年会の司会を務めさせていただく頃には、「はい！よろこんで！」と言えるようになっていました。

活動が制限されるコロナ禍とともに始まった2年目は、YEGを担う提言委員会の皆様の熱量に触れる貴重な経験をさせていただきました。個人的には提言先である松江市とYEGの橋渡し役ができたことも嬉しかったです。

2年間でありましたが、YEGの皆様方にお支えいただいたことを心より感謝申し上げます。結びとさせていただきます。ありがとうございます。





**榎戸 将幸**  
(有)榎戸商店

2019年度に入会して約2年の活動をさせてもらいました。短い期間ではありましたが、積極的に参加を心掛けました。今になって思えばもう少し早く入会していればよかったなといささか悔やまれます。それぐらい楽しく充実した2年間を過ごさせてもらいました。

一年目はわけもわからずといった状況でしたが、周りの方の手厚いサポートもあり徐々に青年部、委員会の仕組みがわかるようになっていきました。普段は小さな会社にいるので委員会で会議をして進めていくというプロセスは新鮮でした。懇親会などにも積極的に参加し、様々な業種の方とたくさんのお話をしているんな情報を教えてもらいつつ勉強させてもらいました。

理事に指名してもらった2年目、「さあがんばるぞ」と意気込んでいましたが、まさかのコロナで様々な行事が中止。水郷祭もなくなりこのまま卒業かと寂しく思っていました。皆様のご尽力で少しずつ活動再開。私も「YEG最優先」というと大げさですが」というぐらいに体が空く限りは活動に参加しました。この原稿を書いている段階でまだ2月のメインイベントが控えておりますが、最後までしっかりとがんばっていききたいと思えます。

2年目に副委員長にお声掛けしていただいた田中委員長にはこの場を借りて心から感謝を申し上げます。理事をさせてもらったことでより深くYEGに関わることができました。YEGという組織、会の運営方法などが私なりに少し垣間見えてよかったですし、貴重な経験をさせてもらいました。また、渡部副会長、佐藤副委員長、(途中退会された)鎌田副委員長にも様々ご助言をいただき勉強になりました。力不足で不甲斐なく「もったいかなあ」と思うこともしばしばありましたが、本当に楽しくさせてもらいました。ありがとうございました。

YEGは卒業になりますが、松江での商売はこれからも続きます。街でお会いすることもあろうかと思いますが、そんなときは元気よく挨拶できるようにこれからもがんばっていききたいと思えます。本当にありがとうございました。



**松林 賢史**  
企業警備保障(株)

平成30年6月に入会以来、在籍年数はわずかでしたが、たくさん楽しい思い出と様々な経験をさせていただきありがとうございます。私は入会するときにYEGのことをよく知らないまま入会しました。実際に参加すると皆様の熱意に圧倒され「これは大変な団体に入会してしまったのかな。」と思っていました。

しかし、皆様と活動を通じて親睦を深めていくにつれ、顔を合わせるのが楽しみとなり、できるだけ参加をするようになりました。

(私の参加がどれだけお役に立てたのかはわかりませんが)振り返ってみるとおどんの出店や、10周年座談会など思い出されてきます。好きおどんの企画なんて面白かったですよね。でもやはり一番の思い出といえば、初めて参加した水郷祭で昼間はお店、夜は本業のテント見張りの警備をしたことですかね。昼間の暑さと忙しさと夜は眠かったなあ。でも、昼間は昼間で焼きそば焼いたり、かき氷作ったり、ビール売ったり飲んだり楽しかったし、夜は夜でハプニングがあったりと面白いこともありましたよ。それでYEGで活動できる最後の今年は！というところからウイリスの影響で軒並みにイベントが中止となり、「活動できない！」というくやしさとさみしさを感じる心残りある年となってしまいました。

そんな中ではありましたが皆様と一緒に活動を通じてつながりができたこと、経験させていただいたことは私にとっただけがえのない財産だと思います。現在もコロナウイリスの影響で思うような活動ができませんが、皆様の若き力を松江市の発展に傾注いただき、魅力ある街にしていきたいと思えます。

終わりに皆様のご活躍を祈念いたしますとともに今後も変わらぬお付き合いのほどよろしくお願い致します。



# 令和2年度 活動報告

一年間の行事と活動の様子を写真で一部紹介するコーナーです。

◀4月 臨時総会

4月総会の中止に伴い  
WEBで臨時総会を実施



◀10月例会



◀12月 定時総会



◀12月 忘年会



◀12月 地域支援事業



◀2月 政策提言勉強会



◀2月 地域ブランド化事業



◀2月 例会



◀2月 次世代育成事業



◀3月 経営者勉強会



## ■事務局だより

早いもので、前任から引き継ぎを受けてから3年が経ちました。

令和2年度を振り返ると、多くの方が新型コロナウイルス感染症の蔓延を挙げられると思います。コロナ禍と言われる世界的な混乱状況は今も続いています。そのような中で、青年部の活動としてももちろんですが、事業所としても様々な悩みや課題を抱えておられ、今年度は会員の皆さんから、補助金や給付金、金融などの相談を受けることも特にかつた年度でした。

緊急事態宣言の際に、長岡会長も「まずは自社の事業を」とお話されましたが、青年部の活動は、まず各事業所の健全な発展があつてこそだと思います。青年部の事務局は青年部の活動に伴走することが仕事ですが、松江商工会議所の職員としては地域の事業所の発展を支援することが仕事です。事業所支援について、今後とも松江商工会議所全体でお手伝いできればと思っておりますので、役員一同よろしくお願いたします。

松江商工会議所 経営支援課 三原香朱実

詳しくは松江YEGの  
ホームページで  
ご覧ください  
(令和2年度活動紹介ページへ)



青年部ホームページ <https://www.m-yeg.com/> この1年の活動が全てご覧になれます。



# 原点と変化

令和3年度会長 大内 智弘

令和3年度のスローガンは「原点と変化」としました。この「変化」という言葉、歴代の会長のスローガンの中にも多く使われています。変化する情勢に対応していく、活動を見つめ直す、新しいことに挑戦する。YEGに限らず、組織が、個人でも成長していくためには常に求められることだと思います。

自分が松江YEGに入会した平成21年から約12年が経過しました。その間、社会情勢はもちろん、YEGの事業もその時々の方針の下、時代に応じて変化してきました。その中でも令和2年度のコロナの流行は社会的にも、YEGにも大きな影響を与えました。委員会で集まることさえままならない状況になりYEG活動の一時停止、そして戦時下以外では初となる水郷祭の中止など、想像もしなかった状況となり、今もその影響は続いています。

みんなで集まって事業をし、そのあとは飲食店で懇親を深める。県連や中国ブロック大会に参加し多くの仲間と語らう。今まで当たり前のようにやっていたことが、当たり前前にできなくなりました。しかし、このような状況だからこそ、改めて我々が何のために活動しているのか、一度立ち止まって考える機会になると思います。

変化をするときに大切なことは我々の原点は何かきちんと認識して

おくことだと思います。YEGにとつての原点は、綱領・指針になります。そして松江YEGには、目指す将来像として設立40周年に掲げられた「松江商工会議所青年部ビジョン」があります。これに基づいて目的・主旨を定め、事業を実施すること、これは変えてはいけないものです。変えるものは手法・方法です。慣習や前例にとらわれず、目的・主旨を達成するために必要なことは何か、深く考えることでより良い事業になると思います。

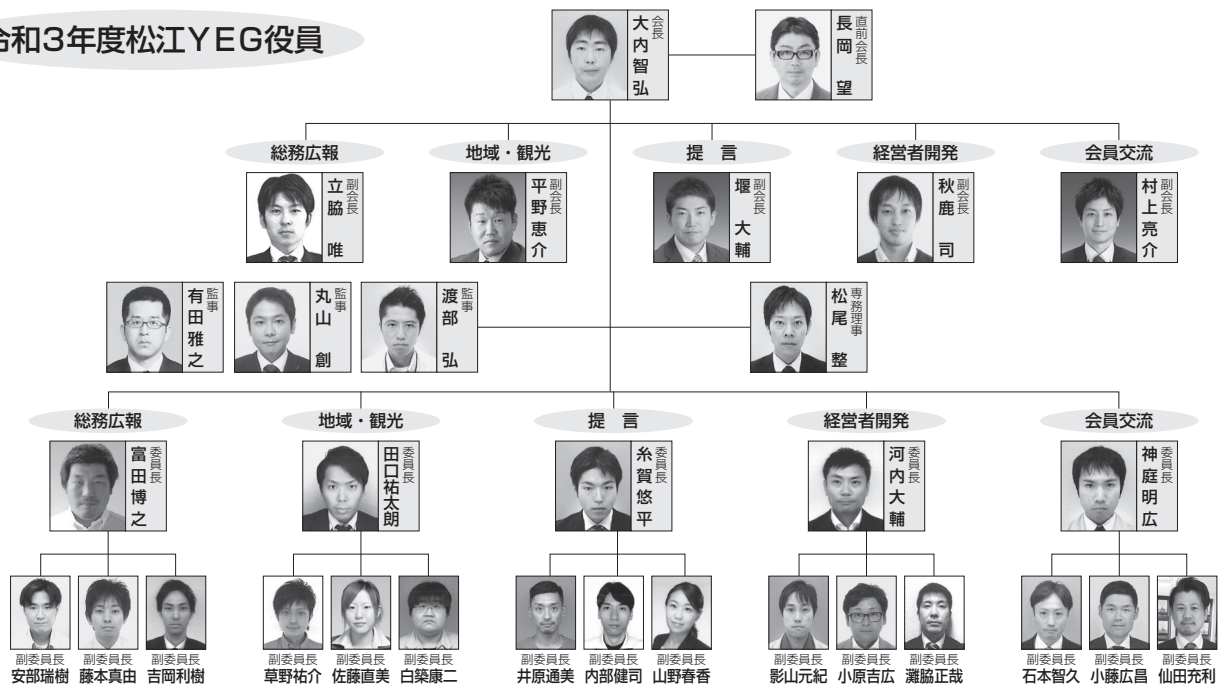
物事を変えること・新しく始めることは大きなパワーが必要になります。その目的・主旨がきちんとしておられ、共感できるものであれば、会員全員一致団結して協力していきましょう。松江YEGが時代の変化に対応し、新しいことに挑戦できる組織であり続けることが、豊かで住みよい郷土づくりの貢献につながることを信じています。

最後に。自分はYEGに入会し、多くの人に出会い、いろいろなことを学び、仲間と事業に取り組み、地域に貢献し、達成感を共有する。本当に素晴らしい経験をいくつも得ることができました。

このような会を築いてきた諸先輩方に深く感謝するとともに、より良い形で次代に引き継げるよう、一年間精一杯やりますので、よろしくお願ひします！



## 令和3年度松江YEG役員



# こんな会です 松江商工会議所青年部

松江YEG

<https://www.m-yeg.com/>

入って良かったネ! って言われます。一緒に青年部活動をしてみませんか?

我々、松江商工会議所青年部は、松江市で商売を営む45歳までの商工業青年経済人の集まりです。目的は、松江市の健全な地域発展のため、様々な事業を通して豊かで住みよい郷土づくりに貢献することです。そして、この目的のもと、多彩な活動を行うことが、松江市民からの信頼を得て、青年部会員各社の発展につながると確信しています。松江市において商売をする“あなた”、是非とも入会し、自己研鑽、情報収集そして幅広い人脈を得るため、我々と一緒に青年部活動をしてみませんか。

青年部会員一同



## 経営強化、ニュービジネスの発展・展開



### Creative

多様化するビジネスの波を乗り切る!

地域経済を支える様々な方の講演会を始め、委員会独自の勉強会など松江商工会議所青年部ならではの企画で、ビジネスチャンスを見逃さずキャッチすることが出来ます。

### Community

愛すべき私たちの街、松江!

毎年夏に開催される水都松江の一大イベント「水郷祭」に参加協力、みんなで力を合わせ、汗を流し、地域のお祭りに貢献しています。又、それぞれの委員会活動を通して、地域経済の発展を考えています。

### Communication

同じ街に生きる同世代の仲間づくり!

歌あり、酒あり、スポーツあり。各種レクリエーション企画を通じて、会員相互のコミュニケーションを深め、より楽しい青年部活動を目指しています。

生き活きた地域づくり

ヒューマンネットワークづくり

5 委員会で構成されています

総務広報(委)

地域・観光(委)

提言(委)

経営者開発(委)

会員交流(委)

## Q&A 青年部って どんなところ?

### Q 青年部の目的は何ですか?

A. 各種講演会・勉強会を通じて青年経済人としての人格、教養および経営能力を高め企業の発展をはかると共に、商工会議所活動への寄与および、地域づくりに貢献していくことを目的としています。

### Q 入会資格はどうなっていますか?

A. 松江商工会議所の会員企業で45歳までの方なら、男女問わずどなたでも入会できます。地場産業の社長、後継者の方をはじめ、会社員の方、また転勤族の方も入会しています。

### Q 会費はいくらですか?

A. 会費は年間48,000円(令和3年4月1日より)です。会費は当会の運営・活動費に充てられます。

### Q どうやって入会するのですか?

A. 所定の入会申込書に記入していただき、現会員1名の推薦があれば入会できます。詳しくは、事務局にお問い合わせ下さい。

### Q 会合は月どのくらいあるのですか?

A. 全会員を対象とした例会等隔月1回程度開催されます。又各委員会が月に1~2回程度行われています。

### Q 会員は何人いますか?

A. 現在102名(令和3年3月1日現在)です。

### Q 組織運営はどうなっているのですか?

A. 委員会で討議された事業計画が理事会の承認のもと円滑に遂行されます。理事会は、会長・直前会長・副会長・専務理事・委員長・副委員長・監事によって構成され、月1回開催されます。そして全会員出席による最高決議機関である総会が年に2回開催されます。

### Q 入会はどこに申し込みばよいのですか?

A. 松江商工会議所の3階に事務局がありますので、こちらへ申し込んでください。また、お知り合いの方々の中に、すでに会員の方があればその方に申し込んでいただいても構いません。年度途中でも入会できます。